

2013（平成25）年6月

NPO 法人 日本ビオトープ協会
第5回ビオトープ顕彰受賞作品の紹介

◇顕彰委員会委員長の講評：『ビオトープフォーラムin東京2013〈協会設立20周年記念フォーラム〉』
—人と自然が共生するまちづくり—（2013年5月31日）にて



それでは受賞作品について若干講評をさせていただきます。

「技術特別賞」を贈られました「調整池排水路の近自然化・河川ビオトープ」でございますが、本格的な緑化、環境整備がなされていない技術的に問題がある中でトライされ、非常に新しい技術開発に努力されたところでございます。ただ調整池という場所ということもありまして、地域の方々との関係、どういふふう維持管理していくかが課題ではないかと思っております。今後さらに期待しているところです。

「地域貢献賞」を受賞された「高野宿ビオトープ」に関しましては、地域の人々に啓蒙するような事業として、既に10年以上続けていて、象徴的にはホテル池の活動であります。地域に大変貢献されているものであります。

「審査委員長賞」は2件ございまして、呉市の「二河公園めだか池」に関しましては、自然観察会それからメダカ池というものを組み合わせて、いろいろな形の努力をされている、特に子供たちの教育の場として、行政も絡んだ形で維持管理しているということが高く評価されました。

同じく「審査委員長賞」を受賞された、小岩井農牧株式会社の「小岩井農場まきば園ビオトープ」に関しましては、非常に多くの人々が訪れる場所をどのように活用するかという部分で、いろいろな親水空間を作っております。親水池、湿地他いろいろな空間を長年にわたって整備し、管理手法が確立しているということで、非常に高い評価を得たものであります。

今日事例発表があります2件に関しまして、「学校ビオトープ大賞」の学校法人小野学園「大井町自然再生観察園」は、サイエンスパートナーシップ・プロジェクトを踏まえまして、今回新たな整備が行われました。学びと共にこのような空間をどのように活用するかという部分で、東京のど真ん中でこのような試みをされ、緑が少ない大井町の中で毎週何曜日かに地域に開放している、このような点も評価されました。

「ビオトープ大賞」を受賞されました「大府駅東ビオトープ」に関しましては、企業さんが本格的に取り組んだビオトープであるとともに、通常は企業が絡んだ形でありまして箱モノを作りたがる傾向がありますが、そういう見栄えというものを最小限に抑えて、ビオトープに関連するような施設、あるいは、生態系のネットワークの一つという位置づけでやっているという点、それからいろいろな意味で・・・企業の廃棄物等をうまく活用して、チップ利用する・・・企業の活動と連携させて様々な形で効果的にビオトープを整備されているところは、非常に高く評価されるところでございます。

協会の主旨であります希少植物や地域種を積極的に導入されているところ等、いろいろな点を総合して今回大賞を受けられております。

大賞を受けられた事例を含めまして、ぜひ新たなスタートポイントとして、今後ともビオトープを通して自然保護活動あるいは環境教育に貢献していただければと思います。

特にこれからの世代の若い人々、子供たち、そういう人々をどのように感性豊かな大人に育てていくかということへも、ぜひご尽力いただければと思っております。



以上で講評を終了させていただき、今後もビオトープ顕彰制度を各企業・学校他関連の方々を活用していただければと思います。本日は受賞されました関係の方々には大変おめでとうございます。

（横浜国立大学学長 鈴木邦雄顕彰選考委員長）



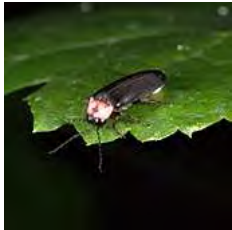
◇ピオトープ大賞

名 称	大府駅東ピオトープ
受賞者	株式会社豊田自動織機 株式会社鈴鍵
【テーマ・概要】	
『人と自然、地域をつなぐピオトープ』～生態系ネットワーク形成をめざして～ 2012年夏、長年管理がほとんどされず荒地状態だった自社遊休地で、地域本来の生態系を取り戻すためのピオトープ整備を行った。 愛知県が推進する生態系ネットワーク形成事業と連携し、周囲の緑地や水辺とのつながりを生み出し、様々な生き物を誘致するような設計を行った。また、ピオトープを一般開放し、環境教育や整備活動を近隣の小学校や地域住民と行うことで、地域とのつながりも生み出していく。 緑、生き物、地域にとっての新しい「つながりの場」になることを目標に活動を進めている。	
【整備方針と管理手法】	
◇整備方針 ～3つの自然環境を創出し、地域の自然の見本園をめざす～ 林ゾーン（地域自生種の植栽）・水辺ゾーン（周辺にため池が多い地形を考慮し、園内にも水辺を再現）・草地ゾーン（整備前の敷地環境を保全）	
◇環境配慮設計 ～資源の有効活用～ 工場廃棄物の再利用（石、堆肥）・園内の水を循環（循環ポンプ）・自然エネルギー（ポンプの動力源は園内設置の太陽光発電）	
◇地域との連携 ～施工段階から多くの地域住民とのかかわり～ 住民説明会の開催・地域固有種を株分けいただき園内に植栽・地域団体との協業による敷地内施設の制作（ベンチ、デッキ、丸太橋、等）・地域の子供たちによる地域在来種魚の放流	
◇管理手法 ～地域とともに、つくり、育て、見守っていく～ 草刈りなどの管理方法をレクチャーするイベントを開催予定（5月）・地域の方々が楽しみながら管理できるようにくみづくりを目指す	
【様子】	
	
放流会	自然体験プログラム



◇学校ピオトープ大賞

名 称	大井町自然再生観察園
受賞者	学校法人小野学園 株式会社静岡グリーンサービス
【テーマ・概要】	
テーマ：「都会における自然環境の復元」ピオトープネットワークの形成 大井町自然再生観察園は、大切な自然を身近な場所に整え、充実感を与えられることを目的とします。「都会における自然環境の復元」をテーマにホタルが飛翔し、多様な生物が生息する里地環境を目指し学校所有地にある樹木を利用したことにより、より自然の里地に近い状況を作り、品川区内における自然環境の復元を目指しました。大井町駅からも徒歩10分以内にある、区民の集い、安らぎの場ともなります。敷地を再整備することにより、地域の自然環境や都市の緑化への効果が期待できます。	
【整備方針と管理手法】	
小野学園は中高一貫の6年サイクルであり、毎年各学年で取り組んでいる「環境授業（ホタル自生）」での知識を活かし、水質の状況検査や雑草取りは生徒が中心になって行います。6～7月には「ホタルのタベ」等のイベントも企画し、緑のある景観まちづくりを地元の人々と協働して取り戻したいと考え、ホタルが飛翔する環境づくりを行います。	
【様子】	
	
小野学園生徒の飼育したホタル幼虫放流式	



◇審査委員長賞

名 称	小岩井農場まきば園ピオトープ	
受賞者	小岩井農牧株式会社	
【テーマ・概要】		
<p>1891年創業以来小岩井農場が自然との共生の中で事業展開を計って来た中で、創業100年を機に観光遊園地を見直し、3千ha全体の農場事業や自然環境を紹介する拠点としてリニューアル、約40haをまきば園と称することとした。その計画の中で園内の雨水調整池を設置し、暗渠排水及び沢水を導入して三つの池からなる親水池・湿地・多自然池としてピオトープの造成を行った。</p> <p>第1池：子供達のジャブジャブ池 第2池：湿生植物池 第3池：多種類の生き物の生息する池となっている。暗渠より通水した池は自然の小川で結ばれていて、2池・3池はさかえ森に接し人の侵入を排除して自然の状況を維持している。季節によって、モリアオガエルの観察会・ゲンジホタル&ハイケホタルの観察会など数千人規模の自然観察会に供している。</p>		
【整備方針と管理手法】		
<p>第1池：子供達が自由に入る事が出来るように水深を浅くし、湿性・水生植物の繁茂を抑制する。定期的な掃除と湿生植物量の調整を実施。入水口付近はクレソン・セリが繁茂し食用に供する事ができる。</p> <p>第2池・第3池は人と接する岸辺のみ常時草刈を行っていて、子供や観光客が水辺まで近づき観察する事が出来る。対岸は隣接する森林との繋がりを意識して生息する生物の行動域を侵害しない様に配慮し生き物の繁殖に適する状況が作られている。</p>		
【様子】		
		
観察会		ホタル観察会

◇審査委員長賞

名 称	二河公園自然観察会 二河公園めだか池	
受賞者	呉市 ひろしま自然の会 株式会社カジオカL.A	
【テーマ・概要】		
<p>呉市の中心部に近い二河公園は、野球場、陸上競技場、スポーツ会館、プール等の施設のあり、気軽に市民が利用出来る公園です。二河公園の中のめだか池では、ホタルの飛翔が見られたが、隣接する陸上競技場の整備により、環境が悪化した為、2年前にみどりのデザイン賞の補助を受け、上流部の枯池だった場所に土を盛り、ホタルの棲める小川や、野鳥の好む樹木や、季節を感じる事の出来るアジサイや、花ショウブ園等を、共働作業で整備し、生物多様性のある自然観察園として再整備し、市民の憩いの公園になっている。</p>		
【整備方針と管理手法】		
<p>二河公園自然観察会は、「ひろしま自然の会」、「呉市消費者協議会」、「地球っ子クラブ善隣館」等が、地元の小学校や、自治会に呼びかけて、自然に恵まれた「二河公園」を中心に、自然やその恵みで、遊び、学び、考え行動する事が出来る様、毎月第二土曜日に誰でも参加出来る観察会を開催している。</p> <p>ホタル観賞会や、水生生物の観察会、巣箱の作成や除草、剪定、清掃、ホタルや、カワニナの放流や看板の作成等を子供達と行い、活動を通じて、ホタルが自然ふ化出来る様な環境にしている。</p>		
【様子】		
		
川石投入		生き物観察会

◇地域貢献賞

名 称	高野宿ピオトープ
受賞者	高野宿自治会 新川水系環境ネットワーク
【テーマ・概要】 現存する谷津田に生息するホタルおよびクロメダカを、その生息環境共々保全、育成するために、市民団体が活動を始めた「保全型ピオトープ」当初数十匹程しか確認できなかったホタルの生体が、10数年の保全活動を経て、市内でも有数の生息地として維持されています。	
【整備方針と管理手法】 周辺水田を管理する地権者、及び農業組合に許可をもらい草刈り時期を調整、管理を行っています。合わせて減農薬、散布エリアへの配慮等、協力とつけています。一方ホタルを定期的に採取、育成、放流をし、生体を物理的に増やしまた、ホタルの勉強会や定期的な清掃作業を通して、地域住民の関心を高め、活動に理解と協力を受け、全てボランティアで作業を行っています。	
【様子】	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>放流会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>鑑賞会・勉強会</p> </div> </div>

◇技術特別賞

名 称	調整池排水路の近自然化・河川ピオトープ
受賞者	株式会社近自然技術研究所 太啓・テクナス建設共同企業体 株式会社鈴鍵
【テーマ・概要】 調整池水路を近自然工法にて施工した経緯 発注時、調整池水路の当初設計では、コンクリートにおける三面水路であったが放流先の上海道川にはホタルやホトケドジョウ・ヒメタイコウチの生息も確認されており「自然環境に配慮した工法を採用できないか？」と各関係機関より要望があり、発注者並びに矢作川漁協の指導の下、近自然工法にて施工する事となった。	
【整備方針と管理手法】 施工上の留意点 ① 周辺環境との調和 1) . 堰堤前面の植栽・・・周辺環境との調和を考え、堰堤前面に植栽等をして違和感のない風景を目指す。 堰堤前のスペースに周辺の森と連続性を保ち植栽をする為、周辺の森の樹木調査を行い同じ樹種を植栽する。 2) . 堰堤の壁面緑化・・・堰堤の白いコンクリート面が目立つ為、壁面緑化を行い違和感のない風景を目指す。 堰堤壁面にツル性の植物を植栽し、コンクリートを隠す。 ② 近自然工法による流末排水の施工 1) . 石組による多段式落差工 石の安定・・・2つの石がもたれ合わせる様に据える 直線性を排除・・・風景に変化 同じ大きさの石を使わない・・・高さの変化 巨石→大石→中小石・・・石の配列に注意	
【様子】	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>施工完了 通水</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>10か月後の様子</p> </div> </div>